

日本再生のために 何を為すべきか

～日本の教育への提言～

2026年5月11日

麗澤大学 特別教授 元空将

織田 邦男

織田(おりた)邦男(くにお)

(元 航空自衛隊 空将)

兵庫県明石市出身 (S27年愛媛県生)

略歴

- 昭和49年 防衛大学校 (航空工学専攻) を卒業し航空自衛隊に入隊
- 昭和52年 F4戦闘機操縦者 として第6航空団 (小松) に勤務
- 昭和58年 米空軍大学に留学
- 平成 2年 第5航空団第301飛行隊長として **F4戦闘機** 部隊を指揮



織田(おりた)邦男(くにお)

(元 航空自衛隊 空将)

兵庫県明石市出身 (S27年愛媛県生)

略歴

- 昭和49年 防衛大学校 (航空工学専攻) を卒業し航空自衛隊に入隊
- 昭和52年 F4戦闘機操縦者 として第6航空団 (小松) に勤務
- 昭和58年 米空軍大学に留学
- 平成 2年 第5航空団第301飛行隊長として **F4戦闘機** 部隊を指揮
- 平成 4年 スタンフォード大学客員研究員
- 平成 8年 第2航空団飛行群司令 (**F15戦闘機** 資格取得)









織田(おりた)邦男(くにお)

(元 航空自衛隊 空将)
兵庫県明石市出身 (S27年愛媛県生)

略歴

- 昭和49年 防衛大学校 (航空工学専攻) を卒業し航空自衛隊に入隊
- 昭和52年 F4戦闘機操縦者 として第6航空団 (小松) に勤務
- 昭和58年 米空軍大学に留学
- 平成2年 第5航空団第301飛行隊長として **F4戦闘機** 部隊を指揮
- 平成4年 スタンフォード大学客員研究員
- 平成8年 第2航空団飛行群司令 (**F15戦闘機** 資格取得)
- 平成11年 第6航空団司令 (兼小松基地司令)
- 平成13年 航空総隊司令部防衛部長
- 平成15年 航空幕僚監部防衛部長 (防衛計画の大綱、中期防衛力整備計画)
- 平成17年 航空開発実験集団司令官
- 平成18年 航空支援集団司令官 (**イラク派遣航空部隊指揮官** を兼務)

私が戦闘機乗りに なると決めたとき

なんで靖国参拜に反対するんじやろう…

元自衛隊員 織田邦里



筆者は自衛隊に約40年奉職して16年前に退官した。F4戦闘機操縦者として防空の最前線で勤務し、日本の空の守りに従事してきた。なぜ戦闘機操縦者の道を目指したか。男子は、一度はパイロットに憧れるという。そういう面もあるが、叔父の影響が何より強い。

その叔父とは父の9歳年下の弟のことである。彼は17歳で帝國海軍に志願し海軍パイロットになった。だが、昭和18年11月20日、太平洋のギルバート諸島上空にて散華された。享年21。11月20日は、米軍によるマキン・タラワへの上陸作戦が始まる前日であり、ギルバート諸島上空で大規模な日米空中戦があった。筆者はもちろん一度もお会いしたことはない。だが同じ空を戦場とする先輩でもあり、とても身近に感じる存在であ

り続けている。子供の頃、盆と正月は愛媛県三島にある父の実家に帰省すが我が家の年中行事だった。時、広い客間の中央に飛行服叔父の遺影が飾ってあった。心に興味があつたが、その遺誰で、珍しい服装が何を意味か誰も語ろうとしなかった。なんとなく聞けない雰囲気があった。今から思えば皆、叔父の戦

がよほど辛かったのだろう。ある時、写真が叔父であり、あの服装が飛行服であることを母がこっそり教えてくれた。筆者は幼いながら、「僕もパイロットになる」と奮い立った。今思えば、これが戦闘機パイロットを天職に選んだ瞬間だった。

筆者はその後、実際に航空自衛隊で戦闘機パイロットとなり、約3800時間の飛行時間で空の任務を終えた。幾度も「ヒヤリ・ハット」する経験をした。空を戦場にする天職の宿命であるが、その



筆者の叔父の写真

都度、何とか切り抜けてこられた。これも叔父に守られてきたからと勝手に思っている。戦死することも、殉戦することもなく天職を全うできたことを心から感謝している。

母は広島県呉市出身である。そのせいか、江田島にある海軍兵学校のことをよく聞かされた。生徒が凄々しくて格好良かったと語っていた。乙女心に憧れの存在だったのかも知れない。防衛大学の

おられた。くにお、昭和二十七年生まれ。四十五年に防衛大学校入校、四十九年に卒業後、航空自衛隊入り。F4戦闘機のパイロットなどを経て、航空本部監理防衛部長、航空支援部副司令官などを歴任。平成二十一年に退官。

存在を知らされたのも、母からだった。その後は、防衛大学校にあって、戦闘機操縦者になること筆者の定められた運命のようだった。

父の「自分史」

今年で「戦後80年」という。者はちよと半分のときを国に衛に従事したことになる。大戦戦争は実体験がないので、それ振り返る報道などを見ることもあった。正直なところピンと来なかった。だが、9年前に102歳で亡くなった父が書き留めた「自分史」を最近になって読み始め、父の眼を通して大東亜戦争の実相に触れることができた。「自分史」の最初には「後男（筆者の叔父、父の弟の名前）戦死 昭和18年11月20日ギルバート







織田(おりた)邦男(くにお)

(元 航空自衛隊 空将)

兵庫県明石市出身 (S27年愛媛県生)

略歴

- 昭和49年 [防衛大学校 \(航空工学専攻\)](#) を卒業し航空自衛隊に入隊
- 昭和52年 [F4戦闘機操縦者](#)として第6航空団 (小松) に勤務
- 昭和58年 [米空軍大学に留学](#)
- 平成 2年 第5航空団第301飛行隊長としてF4戦闘機部隊を指揮
- 平成 4年 [スタンフォード大学客員研究員](#)
- 平成 8年 第2航空団飛行群司令 ([F15戦闘機](#)資格取得)
- 平成11年 第6航空団司令 (兼小松基地司令)
- 平成13年 航空総隊司令部防衛部長
- 平成15年 [航空幕僚監部防衛部長](#) ([防衛計画の大綱、中期防衛力整備計画](#))
- 平成17年 航空開発実験集団司令官
- 平成18年 [航空支援集団司令官](#) ([イラク派遣航空部隊指揮官](#)を兼務)
- 平成21年 航空自衛隊退職 三菱重工顧問
- 平成27年 [東洋学園大学客員教授](#)
- 平成29年 三菱重工退職 織田コンサルタント代表
- 令和 4年 [麗澤大学特別教授、正論大賞受賞](#)
- 令和 7年 [日本会議副会長、アパ懸賞論文最優秀賞受賞](#)

現在：国家基本問題研究所評議員、日本戦略研究Forum政策提言委員
岡崎研究所理事、織田コンサルタント代表、麗澤大学特別教授

織田(おりた)邦男(くにお)

(元 航空自衛隊 空将)

兵庫県明石市出身 (S27年愛媛県生)

略歴

- 昭和49年 防衛大学校 (航空工学専攻) を卒業し航空自衛隊に入隊
- 昭和52年 F4戦闘機操縦者として第6航空団 (小松) に勤務
- 昭和58年 米空軍大学に留学
- 平成 2年 第5航空団第301飛行隊長としてF4戦闘機部隊を指揮
- 平成 4年 スタンフォード大学客員研究員
- 平成 8年 第2航空団飛行群司令 (F15戦闘機資格取得)
- 平成11年 第6航空団司令 (兼小松基地司令)
- 平成13年 航空総隊司令部防衛部長
- 平成15年 航空幕僚監部防衛部長 (防衛計画の大綱、中期防衛力整備計画)
- 平成17年 航空開発実験集団司令官
- 平成18年 航空支援集団司令官 (イラク派遣航空部隊指揮官を兼務)
- 平成21年 航空自衛隊退職 三菱重工顧問
- 平成27年 東洋学園大学客員教授
- 平成29年 三菱重工退職 織田コンサルタント代表
- 令和 4年 麗澤大学特別教授、正論大賞受賞
- 令和 7年 日本会議副会長、アパ懸賞論文最優秀賞受賞

現在：国家基本問題研究所評議員、日本戦略研究Forum政策提言委員
岡崎研究所理事、織田コンサルタント代表、麗澤大学特別教授



織田邦男氏

昭和27年、愛媛県生まれ。防衛大学校卒業後、航空自衛隊に入隊。F4戦闘機パイロットを経て、米スタンフォード大学客員研究員、航空幕僚監部防衛部長、航後、東洋学園大学客瑞宝中綬章を受章し



<https://onl.la/7VCxbwJ>

正論大賞を受賞し、フジサンケイグループの日枝久代表（左）からブロンズ彫刻を贈呈される麗澤大学特別教授で元空将の織田邦男氏 = 27日午後、東京都千代田区（三尾郁恵撮影）

公益財団法人アパ日本再興財団主催

第十八回「真の近現代史観」懸賞論文受賞者発表

最優秀藤誠志賞を織田邦男氏が受賞！



1. はじめに — 問題意識

2

「戦後最大の試練の時」 「新たな危機の時代に突入」 — Decisive Decade

ウクライナ戦争の教訓 / ローマ帝国の箴言から学ぶ安全保障の本質

抑止の方程式

抑止 = 能力 × 意図 × 相手の認識

能力の構成要素

能力 = 装備 × 人 × 意図（法制度）

焦点

「人」に焦点を当てた安全保障戦略

→ 今こそ「人」を育て直す教育の抜本改革が急務。戦後教育の「つけ」を直視する。

日本の安全保障環境

戦後最大の試練の時を迎え
新たな危機の時代に突入している

中国の軍事動向

これまでにない最大の戦略的挑戦

習近平氏の演説のポイント

■ 抗日戦争

- ▶ 困難を極めた偉大な戦争。世界反ファシズム戦争の重要な構成部分だ

■ 現在の世界

- ▶ 人類は再び平和か戦争かの選択に直面

■ 中国軍

- ▶ 世界一流の軍隊の建設を加速し、国家の主権と統一、領土の一体性を断固として守る

■ 今後の中国

- ▶ 強国建設と民族復興という偉業を推進
- ▶ 中華民族の偉大な復興は止められない

抗日戦争勝利80年記念式典 3人が並んで観閲

2025.9.3

2015年 10年前の軍事パレード



中露朝

新「悪の枢軸」揃い踏み

2025年

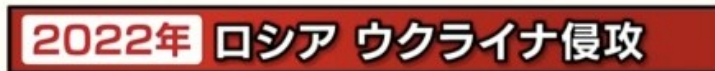


3か国の関係は

2019年 習氏 初の公式訪問



2022年 ロシア ウクライナ侵攻



2024年 包括的戦略パートナーシップ条約



4つの紛争に共通

米国次第→米国のドンロー主義→世界の警察官放棄
力の信奉者→米軍の能力→力の空白→紛争誘発

互いに関連し合う紛争

ウクライナ戦争

イラン戦争

台湾有事

朝鮮半島

露イ関係

兵器支援

(シャヘド)

偵察衛星支援

★原油値上がり

中伊関係

間接支援

原油、LNG購入

武器、弾薬支援

★力の空白

イ朝関係

ミサイル技術支援

核開発支援

テロ支援

★南北敵対関係

中露関係

間接支援

原油、LNG購入

軍民両用支援

台湾独立反対

露朝関係

軍事同盟

兵士派遣

武器・弾薬支援

我々は今
”DECISIVE DECADE”
を生きている

「戦後最大の試練の時」 *Decisive Decade*

戦争になるかならないかの10年



この10年の努力が問われる

- ・ 防衛努力（GDP数%）で抑止できるなら安いもの
それを使いこなせるソフトウェア（憲法）は？
- ・ 現憲法で戦争を抑止できるのか

1. はじめに — 問題意識

2

「戦後最大の試練の時」 「新たな危機の時代に突入」 — Decisive Decade

ウクライナ戦争の教訓 / ローマ帝国の箴言から学ぶ安全保障の本質

抑止の方程式

抑止 = 能力 × 意図 × 相手の認識

能力の構成要素

能力 = 装備 × 人 × 意図（法制度）

焦点

「人」に焦点を当てた安全保障戦略

→ 今こそ「人」を育て直す教育の抜本改革が急務。戦後教育の「つけ」を直視する。

2. 日本の現状 — 数字が示す危機

13.2%

「自国のために戦う」
国際世論調査（日本）
79カ国中・最下位

32%

リトアニア
（同調査）
→ 「与みし易し」
（侵略を誘発）

夢を持ってない若者

リスクマネジメント講義でのエピソード：将来の目標を語れない学生が多数

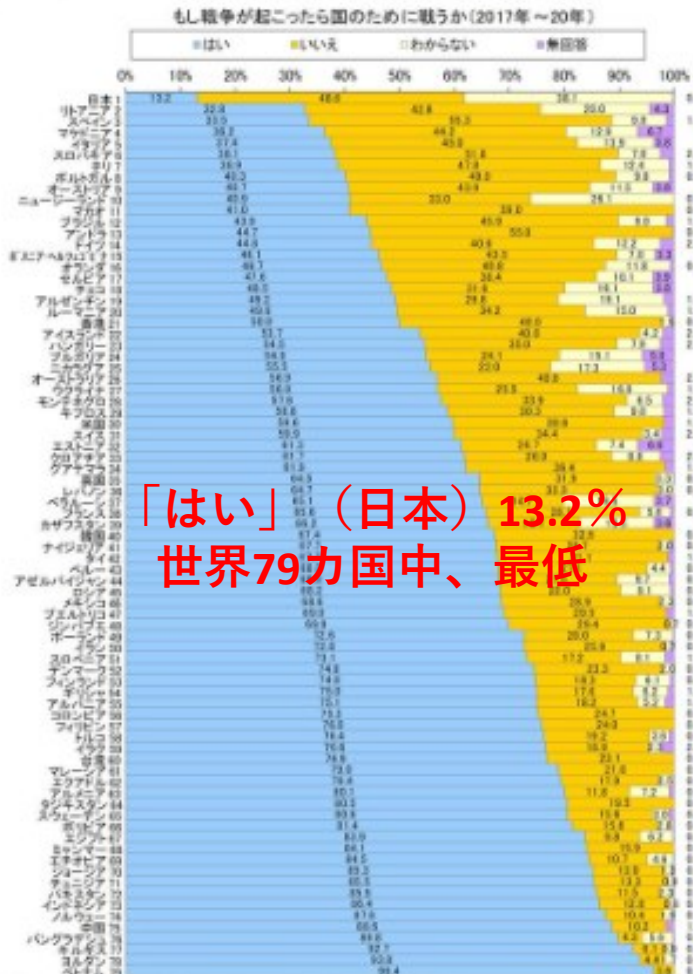
「個」と「公」の断絶

三つの願望（自由・金・恋愛）に終始。社会・国家への関心の欠如

抑止の破綻リスク

「40%」が意味する閾値。教育の重要性を示す総合安全保障講座の結果

図表1 「国のために戦いますか」に日本人は世界最低の回答率

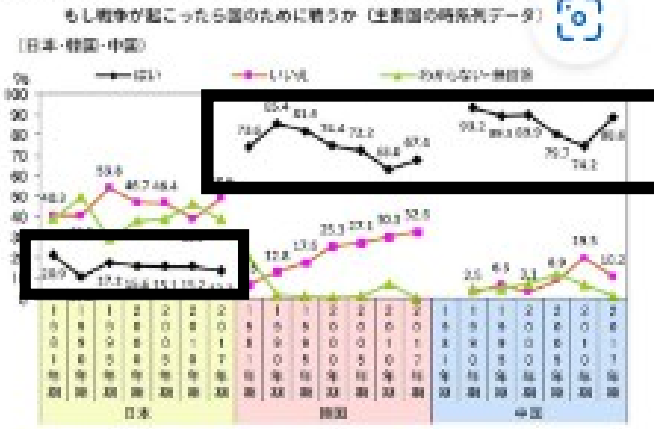


「はい」(日本) 13.2%
世界79カ国中、最低

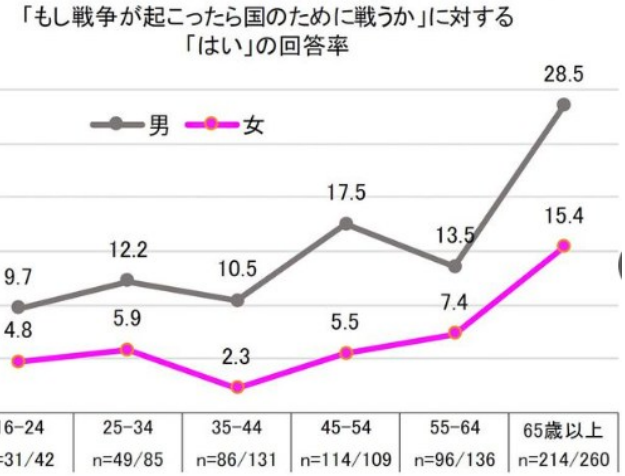
(注) 各国の全国18歳以上男女1,000~2,000サンプル程度の意識調査結果
(資料) World Values Survey HP (2021.1.29)

(2021.1.29)

図表2 冷戦の終結で低下してきた国防意識が、2010年代に反転



図表3 男性、そして高齢者の方が高い「国のために戦う」意識



(注) 日本の2017年(2019年調査)の結果。サンプル数 n=男/女。
(資料) World Values Survey HP (2022.6.4)

(2022.6.4)

自衛隊には特別な人が入隊するからと言っている。これは誤解である。自衛隊には平均的な若者が入ってくる。君が代が歌えない、礼儀を知らない、挨拶ができない、満足な言葉遣いもできない若者も多い。だが自衛隊の教育を受ければ、親も驚くほど変身する。もちろん不祥事を起こす心得者もいる。しかし一般社会と比較すれば格段に少ない。

防衛大学校でも将来自衛官になる明確な目標を持って入校する学生は2割にも満たない。だが「軍人になる前に真の紳士、淑女たれ」との教育を受けると、卒業時には約8割が自衛官に任用する。

「公」の復活を期待する

自衛隊の教育を一言で言うと「『公』の復活」である。入隊したらず、宣誓をする。「事に臨んでは危険を顧みず…」と。一個や「私」の優先から、「転して『公』を第一とする価値観への転換である。教育、訓練、そして実践を通じ、人に尽くす喜び、国家に尽くす志がいを自覚すれば、みるみる眼が輝いていく。

人間は本来、世の為、人の為

「公」に尽くすことを喜びとするDNAを持っている。「あらゆる人間愛の中でも、最も重要で最も大きな喜びを与えてくれるのは祖国に対する愛である」と歴史家キケロも語る。「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」と聖書にもある。

このDNAを築き上げ、一人は人に生かされ、人は人のために生きることを実感した時、真の紳士、淑女に変身する。このような普遍的価値観にはあえて目を伏せ、枝葉末節のみ教育してきたのが戦後教育であり、その結果が「13・2%」なのだ。

中国共産党大会で習近平氏の異例の3期目続投が決まった。主要ポストはイエスマンで占められ独裁体制が完成した。習氏は台湾統一を強調し、武力行使を否定しなかった。台湾有事は日本有事であった。「防衛力の抜本的強化」を急がねばならない。だが教育も忘れてはならない。トマス・ジェファソンは言う。「最大の国防は良く教育された市民である」と。

(おりにお)

2022.11.3

産経新聞「正論」2022.11.3

昭和21年6月、第90回帝國國會議で日本国憲法に関し、次のような質疑があった。「侵略された国が自国を護る為めの戦争は、我々は正しい戦争と言って差支へないと思ふ。(略)戦争一般放棄と云ふ形でなしに、我々は之を侵略戦争の放棄、斯うするのが目的確ではないか」

戦う意思も重要な要素

この前日、吉田茂首相は「第九一条第二項において一切の軍備と國の交戦権を認めない結果、自衛権の発動としての戦争も、また交戦権も放棄したのであります」と答弁している。質問に立った参議士は、実は日本共産党の野坂参三氏である。今の主張と真逆である。昔の共産党は「正論」も述べていたのだ。

現在、ウクライナはロシアの侵略に対し、自らの国は自ら守るという「正しい戦争」を戦っている。だからこそ国際社会は、軍事支援を続けている。2014年、ウクライナはロシアによるクリミア半島の無血併合を許した。ドンバス地方での防衛戦も不甲斐なか

教育が「最大の国防」である意味

った。この時、国際社会の経済制裁、軍事支援は名ばかりだった。気になる世論調査結果(World Values Survey 2021年1月)がある。

「もし戦争が起こったら、国のために戦うか」の問いに「はい」と答えたのは、日本は13・2%で世界79カ國中、断然最下位だった。その次のリトアニアでも32%を超す。中国88・5%、韓国67・4%、平均が約60%である。

防衛力が不十分と相手が認識すれば、戦争は抑止できない。装備だけではない。戦う意思も防衛力の重要な要素である。日本が戦争放棄を唱えても、ミサイルやドローンが容赦なく飛んできると。逃げる場所もない。13・2%以外の人は、どうするつもりだろう。「13・2%」では日本有事の際、国際社会の支援どころか、日米同盟も機能しないだろう。同盟とはいえ日本に血を流す覚悟がな

正論



麗澤大学特別教授
元空将
織田 邦男

ければ米国も助けるわけではない。

自衛官の高い使命感

他方、自衛官の質的レベルは高い。他国と共同訓練をやっても目置かれる存在だ。災害派遣でも大活躍だ。「いざという時はやはり自衛隊」と、今や最も信頼される組織となっている。

「自衛官の高い使命感と13・2%」のギャップはどう解釈すればいいのだろう。「軍」や「戦争」を忌避する風潮や教育の影響が大きい。戦後教育は、国家は悪

であり敵対する存在とする偏ったイデオロギー色の強い教育がなされてきた。国家や権威を否定し、一個や「私」を何より優先させた。思想、信念を押し付けられないと聞。そういう教育で育った若者でも、自衛隊で教育を受ければ素晴らしい若者に変身する。

国旗国歌法ができ、教育基本法が改正され、少しは改善された。だが教育現場はあまり変わっていないと聞。そういう教育で育った若者でも、自衛隊で教育を受ければ素晴らしい若者に変身する。

2. 日本の現状 — 数字が示す危機

2025年度

- ・小中学校：不登校35万4千人（過去最多）
- ・引きこもり：146万人（15～64歳）
- ・自殺：小中高生532人（過去最多）

3

13.2%

「自国のために戦う」
国際世論調査（日本）
79カ国中・最下位

32%

リトアニア
（同調査）

→ 「与みし易し」
（侵略を誘発）

夢を持ってない若者

リスクマネジメント講義でのエピソード：将来の目標を語れない学生が多数

「個」と「公」の断絶

三つの願望（自由・金・恋愛）に終始。社会・国家への関心の欠如

抑止の破綻リスク

「40%」が意味する閾値。教育の重要性を示す総合安全保障講座の結果

→ 「たたずみ君」現象：社会への当事者意識を失った若者をいかに再覚醒させるか

3. 戦後教育と戦後の風潮

吉田ドクトリンの影

国防を他人事とする意識を醸成。米留エピソードに見る当事者意識の欠如

「公」の喪失

社会全体の基軸・方向性を失う。自己実現のみを教え「公への責任」を教えなかった戦後教育

「下の句」の喪失

「自由と責任」「権利と義務」がセットのはずが前半のみに。給食費・年金・成田空港・日教組問題に象徴

国家依存と「公」への甘え

「国は国民を守るべき」→その国家を支えるのは誰か？ ニューハンプシャー州の対比例

→ 「権利と義務」「自由と責任」の両輪を取り戻すことが日本再生の第一歩

4. 自衛隊の教育 — 変革のモデル

5

若者の変身プロセス

1 入隊前

平均的な若者。目標なく、社会への関心薄

2 教育訓練

「公」最優先の価値観。国旗・国歌・宣誓文による帰属意識

3 入隊後

東日本大震災・イラク派遣で内外から高い評価。立山遭難救助の実績

戦後教育との決別

「公」を最優先に据えた教育体系。国際スタンダード（米国幼稚園の例）

DNAの解放

人間が本来持つ社会性・使命感を抑圧から解放し本来の姿に

「公」最優先の価値観

"Service before self" 自己より先に公への奉仕。諸外国から高い評価

→ 自衛隊の教育モデルは「人間の潜在力を引き出す」日本再生のヒントを示している

5. 日本の教育への提言

平和を守るために — 「公の復活」へ

提言①

「公の復活」

"One for all, All for one" /
"Service before self"
個人の自由と公への責任をセット
で教える教育への転換

提言②

社会奉仕活動の教育導入

一人一人が国家・社会を支える自
覚を育む体験型教育。自衛隊モデ
ルの知見を活用

提言③

「凜とした存在」を目指す

「爛熟して倒れつつある」日本か
ら脱却。「与しやすし」を払拭し
、抑止力たる国民の形成

「最大の国防はよく教育された市民」

— トマス・ジェファソン（米国第3代大統領）